



夏休み！未来に向けた人材づくり！ ボランティアチャレンジスクール

福祉施設・ボランティアに共通する大きな課題、それは未来を担う「人材づくり」です。第8次地域福祉活動計画においても「人材づくり」は重点目標に掲げられています。今回は市内の福祉施設及び活動団体と協働した取組「夏休み ボランティアチャレンジスクール」についてリポートします。ボランティアチャレンジスクールは、市内でボランティア活動への支援を行っている3団体（さがみはら市民活動サポートセンター、さがみはら国際交流ラウンジ、市社協ボランティアセンター）で構成される相模ボラディアと市青少年学習センターの共催で中・高校生を対象に実施。市内の福祉施設や活動団体にご協力いただき、高齢者や障がい者への支援、保育、地区社協活動等、福祉から環境保護、国際交流など幅広いジャンルのボランティア活動に38人が参加しました。

●ボランティア活動スタート！



参加者はオリエンテーション（写真左）で活動団体の方の説明を受け、7月21日から8月18日の間に47の活動メニューから2か所の活動を選択。

ボランティア等により運営され子育て中の保護者の息抜き、情報

交換の場「子育てサロン」。そのひとつである「千代田子育てサロン」で活動した麻溝台高校1年生、石田萌さん（写真右・左側）「子どもによって、おもちゃなどの興味の対象が違いますが発見でした」と話し、笑顔で積極的に活動していました。



＜「千代田子育てサロン」での活動風景
毎回8人～15人の1、2歳のお子さんが参加。民生委員等の担い手による子育て相談も行っています＞

●活動の振り返って

スクールの最後は、中・高校生と活動の受け入れを行った施設・団体を交えた「まとめの会」を開催。活動を通して学んだこと、楽しかったこと、難しかったこと等について4グループに分かれて話し合い、発表を行いました。

受け入れ団体からは「暑い中よく頑張ってくれた」「目的をもって参加してくれた」「今後も参加してほしい」等のご発言がありました。そして参加者からは「将来なりたい保育士のボランティアができて夢に近づけた！」「赤ちゃんとの関わりが難しかった」「自分から行動することが大切だと気づいた」といった発表がありました。

本会は今後も様々な場面で若い世代のボランティア活動への参加をサポートしていきます。



＜発表の一コマ＞

未来への一步を応援！みらいチャレンジプログラム応援事業の取組

「みらいチャレンジプログラム応援事業」は市内在住の生活に困窮されている方の自立生活支援や社会参加に取り組む団体への助成事業です。今年度は8月末時点で8団体、348万円の助成が決定しています。助成金を活用して様々な事業が展開されています。

助成団体である「F・C ボランティア」は国道16号の相模原警察署前と市役所通りで、就職困難者の就労促進として花壇整理・清掃活動を週1回程度行っています。参加者にとって、集合時間を守ることやボランティア・参加者同士の交流からコミュニケーション力を養うなど就職や社会貢献に向けての一步につながっています。



相模原みのり塾の様子

「相模原みのり塾」は低所得世帯の中学生を対象に無料の学習塾を運営しています。6月から毎週日曜日の午後に橋本公民館等で活動するほか、夏休み期間中は自習の場として子どもたちに会場を提供。

その中で、「夏休み中に勉強できる環境があったことで、休み明けのテストで点数が上がった」という生徒の声から、事業の効果が伺えます。本助成事業をきっかけに未来へのチャレンジの第一歩になるよう、本会としても応援しています。

福祉の魅力を発信！ 第1回魅力発信チーム開催

本会では、増大する福祉ニーズへ対応する人材確保を目的に平成27年度より「福祉のしごと・魅力づくり検討委員会」を設置しています。委員会では、若い世代に福祉のしごとの魅力を効果的に伝えることを目的に高校生を対象とした授業プログラム・教材の開発を検討。市内の高齢・障がい・保育の施設の現場で働く職員6人による「魅力発信チーム」を立ち上げ、9月14日に第1回を開催しました。



第1回は、神奈川県総合教育センターから講師を招き、「高校生に伝えたい福祉の魅力とは？」をテーマに講義を実施。仕事における「やりがい」、「魅力」、「苦労」の3つのキーワードごとに6人それぞれが考えを整理し、それぞれの意見をKJ法の手法を用いて共有しました。

今後チームでは、「自身の体験」から「人とのつながり」を通して「自身の成長」へつながるという魅力と給料等待遇などの「苦労」の4つテーマで授業プログラムの検討を進めていくこととなりました。

地区住民相談支援活動の取組 ～相模湖「みまもりネットさがみこ」～

市内で少子高齢化が最も進展し、山間部のため集落が点在するという特徴がある相模湖地区。そのため、地区住民相談支援活動は幅広いニーズキャッチの仕組づくりが地区社協によって進められています。そのひとつが福祉コミュニティ形成事業「みまもりネットさがみこ」です。地区内の商店の方に登録いただき、目印のステッカー（写真右）をお店に掲示していただきます。そして来店される高齢者等の変化に気づいた場合には、地区社協事務局や高齢者支援センターに連絡するという仕組みです。



商店への「みまもりネット」の周知、取りまとめ等については検討当初から参画いただいた相模湖商工会の支援を受けることができ、現在28店が登録しています。取組の始まった直後、早速、商店の方より、集金に訪問した際に認知症と思われる高齢者の方がいるとの連絡がありました。すぐに民生委員と高齢者支援センターの職員が、ご本人及び家族への訪問を開始しました。地域密着で商売を続けてきた商店のお客様がどこに住んでいるとあなたのかを熟知しているという「強味」を生かした地域ならではの地区住民相談支援活動が根付いています。